

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	倫理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年	学期及び曜時限	後期	教室名	202,203
担 当 教 員	永田 正昭 澤本万紀子				
《科目目標》					
医療や看護という仕事に就く人に求められる「倫理」や責任について考えられる。 医療現場で医療者・看護師・患者が直面するであろう「哲学的」「倫理的」問題について自己の考えが述べられる。					
《成績評価の方法と基準》					
【評価方法】終講試験100% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
＜参考文献＞ 1) 志自岐康子他編:ナーシンググラフィカ基礎看護学①看護学概論,メディカ出版,2022,P326～329. 2) グループワークの参考文献は自ら検索する					
《授業外における学習方法》					
指定した教科書を事前に読んでおくこと。課題が出された場合にはそれを次回までに行うこと。					
《履修に当たっての留意点》					
専門職業人として求められる「倫理の原則」「看護職の倫理綱領」について理解する。また、医療技術が進むなかでおこる「倫理的問題」について学び、それを通じ「患者(相手)を尊重するとは」「家族とは」「子どもを持つ、親になるとは」「幸福とは」「死をどう迎えるか」などの哲学的な問いについて考えていく。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	患者の権利、患者主体の医療が実現してきた歴史的背景を理解し、人間としての尊厳と権利を尊ぶ考えと姿勢を育む。	テキスト プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	患者の権利が実現していなかった時代の過酷な出来事を紹介し、今日のインフォームド・コンセントに基づく患者主体の医療を実現してきた歴史的背景を理解する。			
第2回	授業を通じての到達目標	ソクラテスと孔子の倫理思想を紹介し、古来より人々が目指してきた「人としての道」について理解を深め今日に生かせる力を育む。	テキスト プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	ソクラテスの「善く生きること」と孔子の「まごころと思ひやり」という倫理思想について紹介し、自らに引き寄せて考える機会を持つ。			
第3回	授業を通じての到達目標	医療と宗教。宗教と一体化していた医療から近代医学への歩みを紹介。特にキリスト教、イスラム教の教えの特色と現代文化への影響について考える。	テキスト プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	宗教がはたしてきた医療への貢献と、信仰を持つ患者への理解を深めるために宗教についての基本的な知識を紹介。宗教を自分に引き寄せて考える機会をもつ。			
第4回	授業を通じての到達目標	生命倫理について。「いのち」と「生命」について原点に立ち返って考察を深め、「生きる権利」と「死ぬ権利」をめぐって考える。	テキスト プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	生命倫理の成立過程を紹介し、「生命の医療」から「いのちの医療」へという提唱について紹介する。とりわけ「いのち」が身体のうちに限られるものではなく、見えない「いのち」のありかについても深く考える。			
第5回	授業を通じての到達目標	生殖補助医療と倫理的問題。先進の医療技術の紹介とともに、それが伴う問題点を紹介し、理解を深める。	テキスト プロジェクター		
	各コマにおける授業予定	人工授精・体外受精によって生まれてくる子どもの「出自を知る権利」をめぐらる問題を紹介し、今日の生殖補助医療が踏まえるべき倫理的問題点について思索を深める。			

授業の方法		内 容	使用教材
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 出生前診断と優生思想について。容易に胎児の遺伝情報を得ることのできる新型出生前診断が「命の選別」になるという懸念とかつて優生思想が「命の選別」を促した事実を紹介し、出生前診断のあり方について考え、自分の意見をもつ。	テキスト プロジェクター
	各コマにおける授業予定	出生前診断の結果をどのように受け止め行動するかについて、さまざまな見解を紹介し、改めて「いのち」について自らの問題として考える機会を持つ。	
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 再生医療。iPS細胞による再生医療など最新の医療技術の紹介とそれがもたらす倫理的問題点について考察を深める。	テキスト プロジェクター
	各コマにおける授業予定	iPS細胞の安全性と問題点を列挙し、医療技術によって可能なことはどこまでも実現してもよいのかという倫理的な問題について自分に引き寄せて考える。	
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 脳死と臓器移植。脳死の定義と脳死を「人の死」とすることの問題点、臓器移植の日本の現状、人の臓器を「モノ」「部品」とみなす考え方の是非について紹介し考察を深める。	テキスト プロジェクター
	各コマにおける授業予定	欧米諸国に比ベドナーの数が少ない日本の臓器移植医療の現状を紹介し、そこで見られるキリスト教文化と日本の死生観の相違を理解する。さらに「いのち」と「死」について自らの問題として考える。	
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 緩和ケアと終末期医療(ターミナルケア)についての理解を深め、生活の質(QOL)の向上をめざす医療にとって大切な心がけを身につける。	テキスト プロジェクター
	各コマにおける授業予定	患者の苦痛を緩和するとともに残りの余生をその人らしく過ごせるようにサポートをする医療のあり方について理解し、自らの問題として考える。	
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 尊厳死・安楽死についての時事問題を通して紹介し、「死のあり方」についてのさまざまな見解を通して自らの考えを持つ。	テキスト プロジェクター
	各コマにおける授業予定	安楽死を認める国々の現状と日本での安楽死をめぐる議論を紹介し、人間が死の領域にどこまで踏み込むことができるかについて考える。	
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護と倫理学との関わりを理解する、看護職の職業倫理としての「看護職の倫理綱領」の内容を理解する。	資料 プロジェクター
	各コマにおける授業予定	看護職の職業倫理としての「看護職の倫理綱領」を事例を用いて理解する。	
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護専門職としての倫理的判断力を高める。	資料 プロジェクター
	各コマにおける授業予定	「看護職の倫理綱領」を踏まえ、事例検討から倫理的判断力を高める。	
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 医療の進歩、造血幹細胞移植について理解する。	資料 プロジェクター
	各コマにおける授業予定	臍帯血バンクの出前講座を通して、医療の進歩と公的臍帯血バンクの意義を理解し、徳、互助、公助等の倫理判断について考える。	
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 臍帯血バンクへのドナー登録と臍帯血プライベートバンクについて、双方の考え方を検討する。	資料 プロジェクター
	各コマにおける授業予定	難病と移植、患者・家族・ドナーの立場、社会の期待等について、事例から権利、意思決定支援等を考える。意見交換し倫理的判断力を高める。	
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 まとめ・終講試験	
	各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験	